

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

この児童発達支援自己評価表は、保護者の方に行った評価表の結果を受け、事業所内で自己評価したものを公開させていただきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	家庭的な雰囲気で行いたいという意図から、一般的な住宅を使用しています。そのため、小集団療育時にはやや狭くなってしまうことがあるため、2部屋を使用しながら、なるべく広いスペースがとれるよう工夫しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	児童10人に対し児童指導員または保育士2人という国の人員配置基準に加え、保育士、公認心理師、社会福祉士、言語聴覚士・理学療法士・画家・音楽療法士など児童、福祉分野での経験と専門性を備えたスタッフ配置に努めています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	指導訓練室は畳の上に絨毯を敷いて、お父さまが安心して過ごせるようにしています。また、パーテーションを使用して、刺激を少なくし、集中して活動できるように工夫しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	子どもの身長や発達段階に合わせて、椅子や机の高さを調整しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	定期的にスタッフ会議を実施しています。また、小集団療育の前にはカンファレンスを行い、対応方法などについてスタッフ間で協議して、より良い支援を行うように努めています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	今後も児童発達支援評価表を実施し、保護者の方からいただいたご意見やご要望の結果を職員で共有し、業務改善につなげていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	今後もホームページで結果を公開していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	現在は保護者の方の評価と自己評価のみですが、今後必要に応じて外部評価の実施を検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	個別療育担当のスタッフ全員が、ABA認定セラピストの研修を受けています。その他にも外部研修の参加や、内部研修を行い、より良い支援を行うように努めています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	個別支援計画作成の際には、標準化された心理検査である、Vineland-II適応行動尺度(ヴァインランド)と日本語版ECBI アイバーク子どもの行動評価尺度(エクビ)の2つを行っています。また、外部機関で実施した発達検査や知能結果も参考にし、お子さまの強みや弱み、課題を明確にしたうえで、個別支援計画を立てています。また、6か月ごとに同じ心理検査を行い、伸びたところ、課題を明らかにして、保護者の方と共通認識しています。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Vineland-II適応行動尺度と日本語版ECBI アイバーク子どもの行動評価尺度(エクビ)は、標準化された心理検査で、公認心理師・臨床心理士が行っています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	上記の心理検査の結果を伝え、お子さまの課題を明確にしたうえで、個別支援計画の中で具体的な支援方法をご説明しています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	個別支援計画を立てる際や、日々の療育の内容については、保育士・社会福祉士・言語聴覚士・公認心理師・理学療法士、児童指導員等の多職種のスタッフでミーティングを行っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	社会性の課題があり、小集団療育の利用が有効と思われるお子さんには、保護者の方へ目的を説明し、参加を促しています。個別療育と小集団療育でのお子さまの様子を観察しながら、支援に役立てています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	小集団療育の前には、ミーティングを行い、最近のお子さまの様子、活動の流れ、役割分担や支援方法、配慮点について情報共有しています。終了後には、子どもの様子や支援の振り返りを行い、記録しています。それを次回の活動内容に活かすことや個別療育の担当者に伝え、お子さまの支援に役立てています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	6か月に一度、保護者の方から家庭や園での様子をお伺いし、心理検査を行ったうえで、多職種のスタッフで協議し、支援計画を見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	開催される場合には、児童発達支援管理責任者や管理者、担当者など適任者を選んで出席しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	必要に応じて、各市役所担当課と連携を行っています。また、お子さまが通っている園とも連携させていただいています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	当施設は、非常勤の看護師が週1回のみ勤務していますが、医療ケアが必要なお子さまの対象施設とはなっていません。基本的には他の方も保護者の方同席で利用していただくため医療的ケアが必要になった場合には、保護者の方にお願いしていますが、実施したことはありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	保育園・幼稚園、こども園などへ移行する際には、保護者の意向を伺い、電話や訪問で当センターでの支援内容を説明するなど、必要な連携を行っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	保護者の意向を伺い、小学校や特別支援学校小学部、今後利用される予定の放課後等サービス、障害児児童クラブに対して、これまでの療育の経過や支援内容をまとめた書面をお渡し、必要に応じて説明も行い情報共有しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		必要に応じて、他の児童発達支援事業所や発達支援に関する関係機関と連携させていただいています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○	並行通園の方がほとんどのため、現在は特に実施していません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		自立支援協議会子ども部会に参加し、他機関との情報共有、地域課題への参画をしています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		○	保護者の方が療育に同席ではない場合には、フィードバックの際にお子さまの様子を伝えさせていただいています。また、家庭や園での様子を話す機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間も設けています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○	保護者の方に対して、家庭での対応方法についてお話しさせていただいたり、事業所内相談支援として個別に相談にのり、課題解決のための支援をさせていただいています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか		○	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	2023年度は、「いろはの会」という保護者のための講座を2回行い、その中でグループで保護者同士が意見を交換できる場を設けました。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○	保護者からの相談を随時受け付けております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	月1回お便りを発行しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか		○	個人情報が記載された書類は鍵付きのキャビネットに保管しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○	活動内容を絵や文字で事前に示したり、話をすることが難しいお子様には、写真を貼ったカードを利用するなど、お子さまに合わせてコミュニケーションをとっています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	開所時には、地域住民の方を対象とした見学・説明会を希望者に行いました。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○	年に3回以上、災害の発生や防犯を意識した訓練を行っています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか		○	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	これまで食物アレルギーのあるお子様の利用はありませんでした。対象児の利用があった場合には、保護者との密な情報共有を行い対応していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	ヒヤリハットが起きた際には、特定の報告書に記載しミーティングを通して職員で共有しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	これまで、身体拘束を行う必要のある事例はありませんでした。